

2014 年度 センター試験 英語リスニング(本試験) 分析

全体概況

試験時間 30 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：25 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 問題の分量、形式は大きな変化がなかった。難易度は、第1問、第2問がやや上がったものの、第3問はやや易くなっているため、全体として変化がなかった。高得点を狙うには、普段から文字に頼らず音声を聞くこと、長めの英文を口頭で正確に繰り返す練習をすること、口語表現に慣れることが必要である。似たような音（例えば b と v、l と r など）を区別するために、正確な発音を身につけておくことも必要であろう。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	短い対話を聞き、答えとなるイラストや数値を選ぶ問題	12 点	子音の V と B の発音の聞き分けや、簡単な計算問題ではあるが掛け算と足し算が複合的に出題されるなど、難易度は昨年より上がったと言える。また、解答のポイントになる部分の文章が長いものがあり、普段から長めの英文を口頭で正確に繰り返す練習をしていないと苦しかったと思われる。
第2問	短い対話を聞き、続く応答を選ぶ問題	14 点	聞き取る分量や、問題形式は大きく変化していないが、口語表現についてかなりの知識が必要であった。第1問と同様、解答のカギとなる部分の文章が長いものもあり、難易度はやや上がった。
第3問	A 対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	A 男女ともに発話数は増加したが、一文は短かったため、落ち着いて聞き取ることがポイントであった。普段から、英語の音声を口頭で正確に繰り返す練習をしておけば十分対処できるだろう。
	B 長めの対話を聞き、図表を完成させる問題	6 点	B 都道府県の人気ランキングの空所を埋める問題。固有名詞が日本語なので取り組みやすかった。また、都道府県の順位を表す言い方もわかり易かった。
第4問	A 短い英文を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	A 断片的に聞き取れているだけでは対処できない問題。やはり普段から長めの文を聞いて、口頭で正確に繰り返す練習が必要不可欠である。
	B 長めの英文を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	B 身近な話題についての問題であり、選択肢も短めだったが、聞き取る英語は一文が長いので難しいと感じた受験生が多かったかもしれない。こうした問題で3問とも正解するためには、聞き取る英文の長さを徐々に長くしていく練習が有効である。